

経済・金融 フラッシュ

8月マネー統計 ～貸出の伸び悩み感がやや強まる

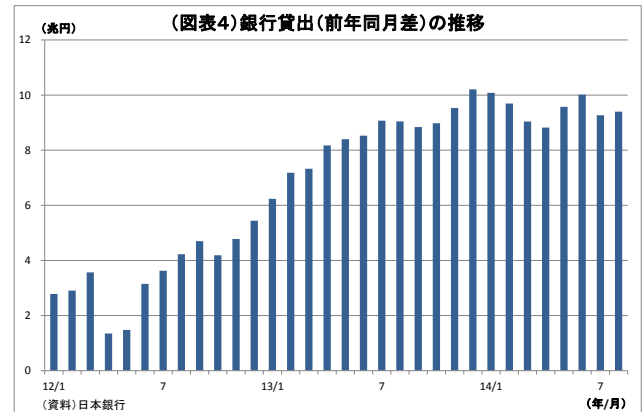
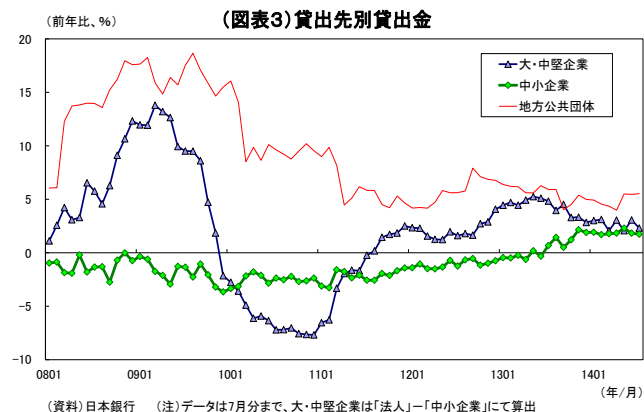
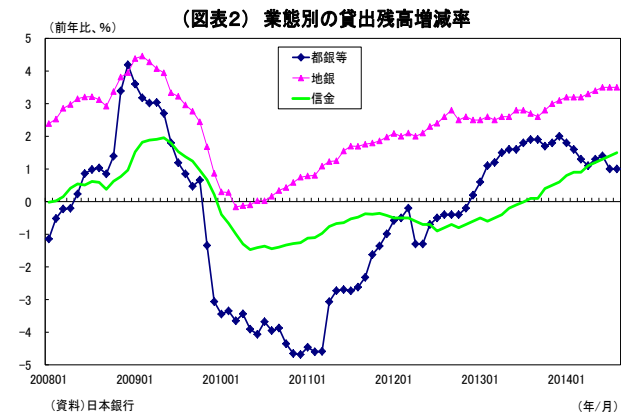
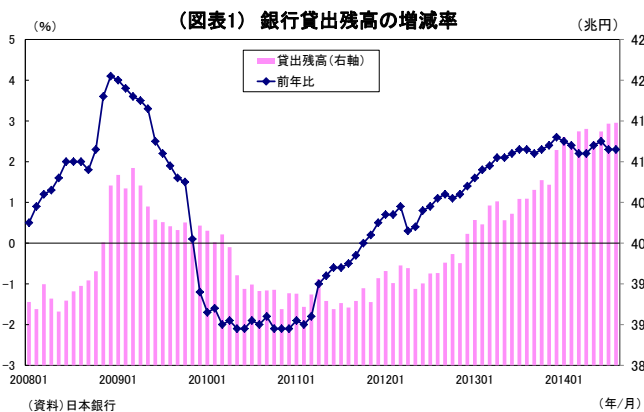
経済研究部 シニアエコノミスト 上野 剛志

TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

1. 貸出動向：伸び悩み感がやや強まる

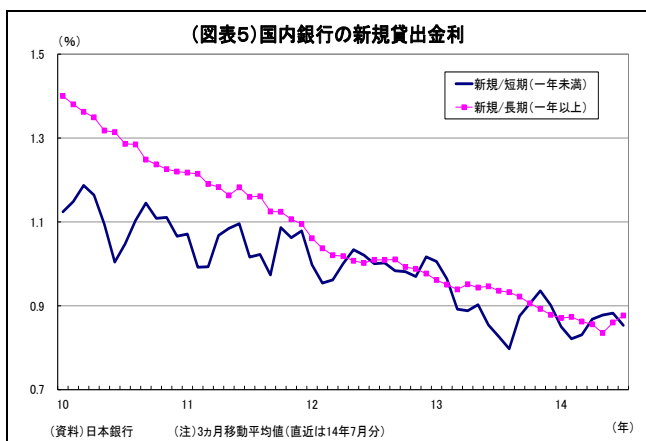
日銀が9月8日に発表した貸出・預金動向(速報)によると、8月の銀行貸出(平均残高)の伸び率は前年比 2.3%(前月も 2.3%)と、前月から横ばい推移であった。業態別の伸び率も、都銀等が前年比 1.0%(前月も 1.0%)、地銀が同 3.5%(前月も 3.5%)とそれぞれ前月から変化なし。地銀では比較的高い伸びが続いているが、都銀等の低迷が色濃くなっている(図表1～3)。

8月の銀行貸出残高は 414.8 兆円(平残、図表1)と、2003年3月以来の高水準を更新(季節要因は未考慮)しており、貸出の増勢自体は続いている。ただし、前月差では(図表4)、ピークである13年12月の10.2兆円増に対して、8月は9.4兆円増に縮小しており、7月(9.3兆円増)からもほぼ横ばいに留まっている。貸出の伸び悩み感がやや強まっている。



なお、7月の新規貸出金利については、短期（一年未満）が 0.93%（前月は 0.898%）、長期（1 年以上）が 0.906%（前月は 0.909%）と、低下に一段感がみられる（図表5）。

ただし、銀行間の貸出競争は引き続き厳しいうえ、長期金利が 0.5% 近辺での推移を続けるなど、市場金利が低迷しているだけに、貸出金利も今後さらに低下余地を探る可能性が残る。



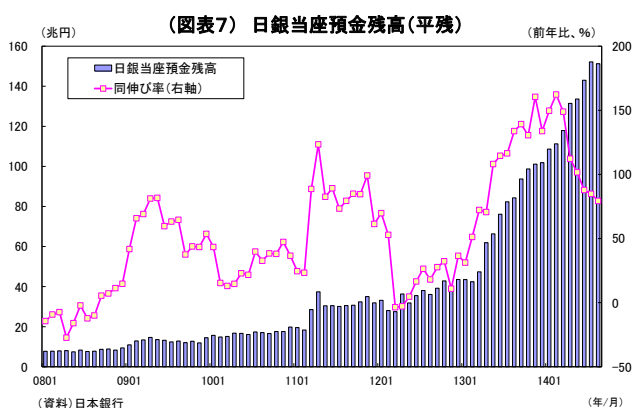
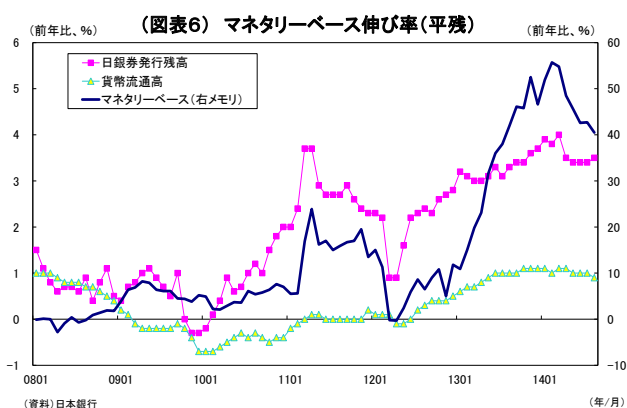
2. マネタリーベース： まだ問題なし

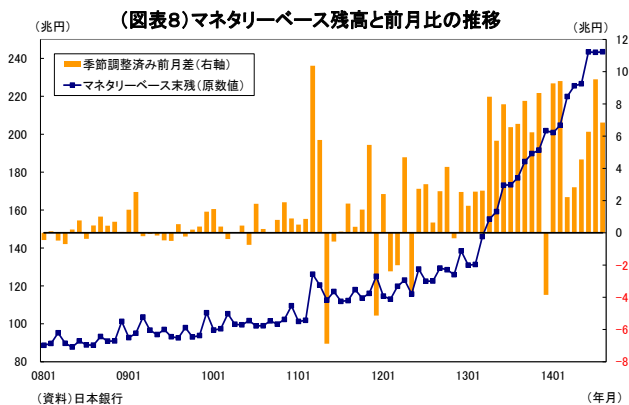
9月2日に発表されたマネタリーベースによると、日銀による資金供給量（日銀当座預金＋市中のお金）を示す8月のマネタリーベース平均残高は 242.3 兆円と、前月から▲0.8 兆円減少した。減少は 18 ヶ月ぶりとなる。前年比伸び率は 40.5%（前月は 42.7%）と前月から鈍化。日銀当座預金の伸び率が 79.3%（前月は 84.8%）と鈍化したのが主因。

また、月末残のマネタリーベース残高も 8 月末時点で 243.5 兆円となり、過去最高ながら、7 月末からの増加額はわずか 0.3 兆円に留まっている。

日銀はマネタリーベースを「年間約 60～70 兆円」ペースで増加させ、14 年末に 270 兆円とする見通しを掲げており、単純に月換算すると毎月約 5.0～5.8 兆円の増加ペースとなるが、7月に続いて8月もこのペースを大きく下回った形となる。

ただし、8月も7月同様、国債・国庫短期証券の発行超過（発行－償還）が多額にのぼり（18.6 兆円）、これに伴って資金が吸収された影響が大きい。実際、季節調整済みのマネタリーベース平残の月間増加額は 6.8 兆円と、上記の見通し達成ペースを上回っており、今年に入ってから8ヵ月平均でも月間 6.4 兆円増と見通し達成ペースをクリアしている。従って、今のところは引き続き問題ないペースでマネタリーベースの拡大が進捗していると判断される（図表 6～8）。





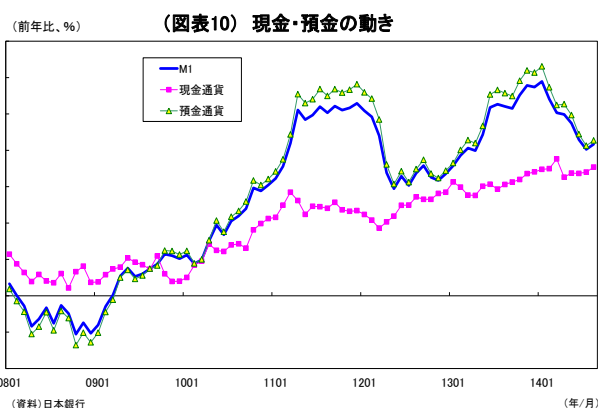
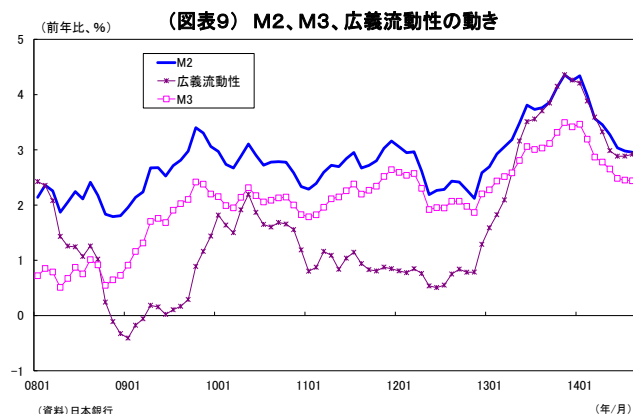
3. マネーストック: リスク選好は途絶えていない

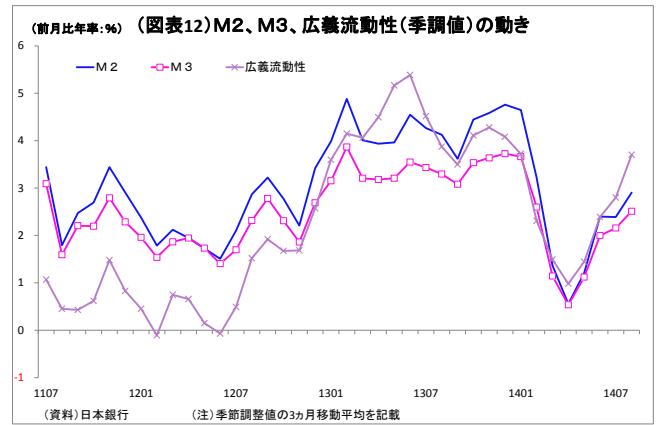
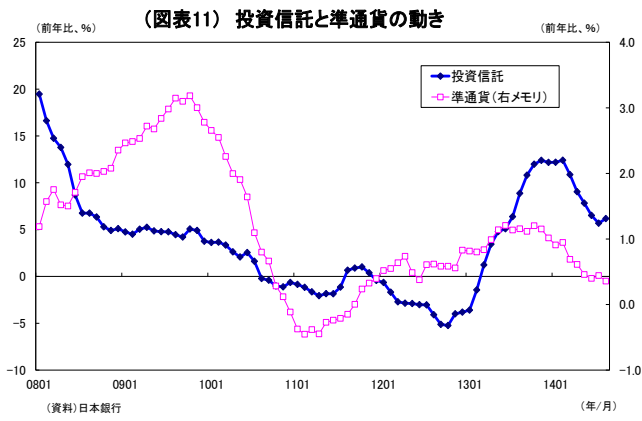
日銀が9月9日に発表した8月のマネーストック統計によると、市中通貨量の代表的指標であるM2（現金、国内銀行などの預金）平均残高の伸び率は前年比2.96%（前月は2.98%）、M3（M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む）は同2.44%（前月改定値は2.45%）とそれぞれ7ヵ月連続で縮小した。伸び率はそれぞれ異次元緩和開始前の13年2月以来の低水準となる。伸び率は分母である前年残高増加の影響を受けるため額で見ても、M3の前年比増加額は28.5兆円と14年1月の39.4兆円をピークとして6ヵ月連続で縮小している。

M3の内訳では、預金通貨（普通預金など）の伸び率が前年比4.3%（前月は4.1%）とやや改善した一方で、CD（譲渡性預金）の伸び率が縮小（9.8%→8.5%）した。

なお、M3に投信や外債といったリスク性資産等を含めた広義流動性の伸び率は前年比2.92%（前月改定値は2.89%）と僅かながら拡大。M3の伸び率が若干鈍化する一方、投資信託（元本ベース、前年比5.7%→6.2%）や外債（同7.1%→8.8%）といったリスク性資産の伸びが牽引しており、リスク選好は途絶えていない（図表9～11）。

また、季節調整済み系列で見ると、M2、M3、広義流動性ともに最近持ち直しの動きが出ているだけに、今後、前年比での持ち直しも期待される（図表12）。ただし、本格的な最加速に至るかどうかは、貸出による信用創造活発化がカギになると考えられる。





(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。